opusdei.org

## 「神は私たちの心より大きい」(一ヨハネ3・20)痛悔と和解(2)

「真理はあなたたちを自由にする」(ヨハネ 8・32)。自らが生きてきた人生についての真理と向き合うこと、それが真の自由への道です。

2025/05/21

前回の記事を読む

## 主よ、隠れた罪からわたしを清 めてください

「わたしは罪をあなたに示し、咎を 隠しませんでした。わたしは言いま した、『主にわたしの背きを告白し よう』と。そのとき、あなたはわた しの罪と過ちを赦してくださいまし た」(詩編 32.5)。詩編作者の心に は、神がいつも私たちをゆるしてく れるという確信が宿っています。同 じ心で私たちも聖なるミサの神秘に 近づきます。イエスの十字架と一致 し、人類の歴史のおいて行われたす べての悪を愛によって贖う「救いの 業 にあずかるため、まずはへりく だって自らの罪を認めます。こ

自分の罪に気づき、それを認めようとするこの姿勢のことを、ある人は病的なもの、または不必要な重荷を心に負わせるものだと理解します。確かに内的生活の成長を妨げる小心は避けねばなりません。しかし健全

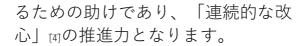
な罪意識というものがあり、それは 心の翼を広げるために欠かせないも のです。責任のあるところに本当の 自由があります。そうであってこ そ、私が行ったことは本当に「私 が上行ったことになるのです。霊的 な成長には現実を直視することが欠 かせません。たとえ不安や良心の呵 責を伴うものであっても、自分の行 いをまっすぐ見つめることが必要で す。神とともに、自分の思い、言 葉、行い、そして怠りに目を向け、 神に背き、他者を傷つけ、主と他の 人に対して無関心であったこと、自 分自身に害を与え、魂の中に悪を育 ててしまったことを見つめるので す。なぜなら真理のみが、私たちを 本当に自由にするからです(ヨハネ 8・32参照)。ですから、特に自らが 生きてきた人生についての真理と向 き合うことは真の自由への道です。

自己を見つめるにあたり、私たちは 三つの誘惑を避けなければなりませ

ん。第一は、表面的な良心の糾明 や、内的沈黙を避けることによっ て、自分の責任を軽視することで す。聖霊は、内的静寂という空間に おいて、私たちについての真理を明 らかにします。第二は、責任を他人 や状況に転嫁することです。そのこ とにより、自分はいつも被害者であ り、また自分は誰にも害を与えてい ないと思い込んでしまいます。そし て第三は、自分のみじめさを受け入 れることができない高慢から生じる 失望です。神に背いたり、他の人を 傷つけたりしたことを悔いるのでは なく、自分自身のプライドが傷つい たがゆえにがっかりするのです。

「知らずに犯した過ち、隠れた罪からどうかわたしを清めてください。 あなたの僕を驕りから引き離し、支配されないようにしてください。そうすれば、重い背きの罪から清められ、わたしは完全になるでしょう」(詩編 19・13-14)。健全な罪の意

識の背後にあるのは、「病的に非の 打ちどころのない履歴を収集する| 四ような態度ではありません。そう ではなく、自分を神から遠ざけるも の、心の内や周囲に分裂を生み出す もの、愛することや愛されることを 妨げるものを「無視したくない」と 願う謙遜な心です。私たちが告白す るのは、ただの「不完全さ」ではな く、無関心や愛の欠如といった、具 体的な言動に現れた心の状態なので す。「主よ、私の愛よ、私の中に、 あなたを悲しませるものがなかった でしょうか? | 国このような姿勢 が、自分についての真実を落ち着い て見つめるための光をもたらしま す。そして、その光が私たちを霊魂 の奥底へと導いてくれます。そこに はすでに、神の国が宿っており(ル カ 17・21参照)、それが私たちの中 で道を切り開こうとしているので す。神なしには何もできないという ことを忘れない限り、健全な罪の意 識は、私たちがさらに神のものとな



- [1] ミサの式次第、回心の祈り参照。
- [2] 聖ホセマリア『神の朋友』75番 参照。
- [3] 聖ホセマリア『鍛』494番。
- [4] 聖ホセマリア『神の朋友』57番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/combat-closeness-mission6-2/(2025/12/16)